第３学年　道徳学習指導案

平成２４年１１月１６日（金）第５校時

３年A組　２５名

指導者　岸本和幸・秋田真吾

１　主題名　人間の気高さ　（内容項目　３－（３））

２　ねらい　誰の心にも弱さや醜さがあるが、それを乗り越え良心の責めと闘いながら歩もうとするところに、人間としての気高く強い生き方があることに気付き、充実した人生を送ろうとする心情を養う。

３　資料名　「二人の弟子」（出典：「中学生の道徳３」あかつき）

４　主題設定の理由

　　ありのままの人間は、決して完全なものではない。人間は、総体として弱さや醜さを持っているが、それを乗り越え、次に向かっていくところが人間の素晴らしさであり、気高さである。

人は自分の弱さについて、よくないものだと受け止めがちである。しかし、その弱さは誰もが持っているものであり、それを乗り越える力も誰もが持っている。自分の弱さを課題と前向きに受け止め、乗り越えていこうとするところに人間の気高さがある。指導に当たっては、弱さの自覚のみに終わることなく、それを乗り越えていこうとする心情を養いたい。

　　本学級の生徒は、前向きに生きていきたいという思いを持っているが、時として易きに流れたり、乗り越えるべき困難から目をそらしたりすることもある。事前に行ったアンケート調査では「自分には弱い所がある」とほとんどの生徒が答えており、内容は「長距離走で競り負けてしまう」「勉強しようとしても投げだしてしまう」「意見が言えない」など、部活動や学習、そして自分の性格にかかわる意見であった。このことから、自分の弱さの自覚があると認められるが、その弱さに対して「何とかしようと努力したが変わらなかった」「面倒くさいので努力しなかった」などという意見も多かった。

　　生徒たちは自覚していないかもしれないが、たとえ小さなことでも自分の弱さを乗り越えた経験は誰にでもあるはずである。それは、自分の中にある、良心や誇りある生き方をしようとする心である。そして、弱さを乗り越えることによって、以前の自分よりも強くなっているはずである。そんな自分の中の貴重な経験も振り返り、弱さを乗り越えていくことが自分に恥じない生き方へとつながっていくことに気付かせたい。

　　本資料には、修行から逃げだした道信と、まじめに修業をし、立派な僧侶になった智行の生き方が描かれている。道信をふたたび弟子とするとした上人の考えに智行は納得できない。上人の心を計りかねた智行だったが、湖畔に咲く一輪の白百合を見て涙を流す。智行の弱さと、生徒たちが感じている自分の弱さを重ねながら、弱さや醜さを乗り越えようとすることの価値に気付かせたい。そして、充実した人生を送ろうとする心情につなげたい。

　　資料が長く、内容の理解に手間取ることが予想されるため、朝読書の時間を利用して事前に読ませておく。また、中心発問に時間をかけるために、発問の数を減らし、資料後半部分から発問を始める。

５　他の教育活動との関連

　人権学習（１１・１２月）、国語（握手・蝉の声・挨拶・夏草・アラスカとの出会い）

音楽（合唱の名曲・協奏曲の名曲）、体育（陸上競技・水泳）

６　準備物

　　資料プリント、イラスト、ワークシート

７　本時の展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | **学習活動** | **主な発問と予想される生徒の反応** | **指導上の留意点** |
| 導  入 | アンケートの結果を知る。 |  | あらかじめ「自分には弱い所があるなあ、と感じたこと」について書かせておく。 |
| 展  開 | １．資料を読む。  ２．道信に対する智行の気持ちを知る。  ３．智行の変容に迫る。  ４．よりよい生き方について考える。 | ○道信から「上人に許してもらい、修行をやり直したい」と聞かされたとき、智行はどう思ったでしょう  　・いまさら何を言う  　・逃げ出したくせに  　・上人様が許すはずがない  ◎純白の白百合の輝きに、止めることができないほどあふれ出てくる涙を流しながら、智行はどんなことを考えていたでしょう。  　・悔しい。　・納得できない。  　・自分には汚れた心があった。  　・道信を受け入れられない狭い心があった。  ○このような心があることはいけないことなのだろうか。  　・よくないことだと思う。  　・よくないが乗り越えることが大事。  　・こんな心があるから、努力できる。 | 朝読書の時間に読ませておく。  (T２:登場人物張り出し)  道信を受け入れられない智行の気持ちを確認する。  智行の弱さを掘り下げる。  弱さを乗り越えることで、よりよい生き方に結びついていくことをつかませる。 |
| 終  末 | ５．弱さを乗り越えた経験を振り返らせる。 |  | 生徒の具体例で示す。 |

８．板書計画

二人の弟子

　　　　　　　　道信

　　　許す

　　　　　　　　　　・いまさら何を。

　　上人　　　　　　・上人が許すはずが

　　　　　　　　　　　 ない。

智行

　　　　　　・納得できない。

純白の白百合の輝きに涙を流しながら、智行はどんなことを考えていたでしょう。

　　　・悔しい。　・納得できない。

　　　・自分には汚れた心があった。

　　　・狭い心があった。

　　　　智行の弱さ・醜さ

　　　　乗り越えていく

　　　　（よりよい生き方）

修業をやり直したい。

二人の弟子ワークシート

名前（　　　　　　　　　　　　　　　　　）

【メモ】